

せんだいメディアテーク年報 (2016年度)

はじめに

東日本大震災以降、せんだいメディアテークでは、それまでの事業に加え人々が語り合い、考える場としての「考えるテーブル」や、震災アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」などに取り組んできましたが、2016年度は、新たに「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」が始まり、さらに地域との関わりを深める年となりました。

メディアテークが館から出て地域で活動するこのプロジェクトは、現代アートの作品にまつわる調査から企画・制作・発表までの過程を人々と共有し、活動に携わることのできる機会をつくりだす、多くの人に関わり、熱のある「アートの現場」を仙台につくりだしていこうとする試みで、「アートノード」という名称は、メディアテークのコンセプトのひとつである「端末（ターミナル）でなく節点（ノード）である。」という言葉から「ノード」を抜き出し、再解釈したものです。アーティストユニット KOSUGE1-16 が、大正時代に仙台で起こった児童文化運動に構想を得て制作した展覧会「こどもアート広場『アッペトッペ=オガルカタカナシ記念公園』」を地下鉄東西線の沿線で開催したほか、市内各所で多様なアーティストのトークやリサーチを展開しました。

一方館内では「畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景」を開催しました。作品の展示に併せて対話の場を設け、表現や現在の社会との関係性を探るといふ、展覧会へのアプローチの可能性を拓く企画となりました。また、ふくしま震災遺産保全プロジェクトとの共催による展示「震災とくらしー震災遺産と人びとの記録からふりかえるー」を開催するなど、震災の記録に携わる関係機関とのネットワークも広がりました。

多くのプロジェクトにご参加いただいたみなさまに感謝申し上げるとともに、この年報を通じて、メディアテークの多面的な事業を全体としてご理解いただき、生涯学習の振興及び文化活動の支援に関心を寄せておられる多くの方々からご意見・ご指導をいただければ幸いです。

目次

1. 施設の概要

- 1-1. 施設
- 1-2. 沿革
- 1-3. 組織
- 1-4. 収支
- 1-5. 施設使用実績

2. 企画事業

- 2-1. 「調査と表明」事業
- 2-2. 発信・活用推進事業
- 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
- 2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

3. 受託事業

3がつ11にちをわすれないためにセンター

4. 情報サービス事業

- 4-1. 映像音響ライブラリー
- 4-2. 教材ライブラリー
- 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）
- 4-4. 地域映像ライブラリー
- 4-5. デジタルアーカイブ事業

5. 配布・刊行物等

- 5-1. 書籍や報告書等の印刷物
- 5-2. DVD メディア等の映像音響資料
- 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等
- 5-4. その他常備している印刷物

1. 施設の概要

1. 施設の概要 > 1-1. 施設、1-2. 沿革、1-3. 組織

1-1. 施設

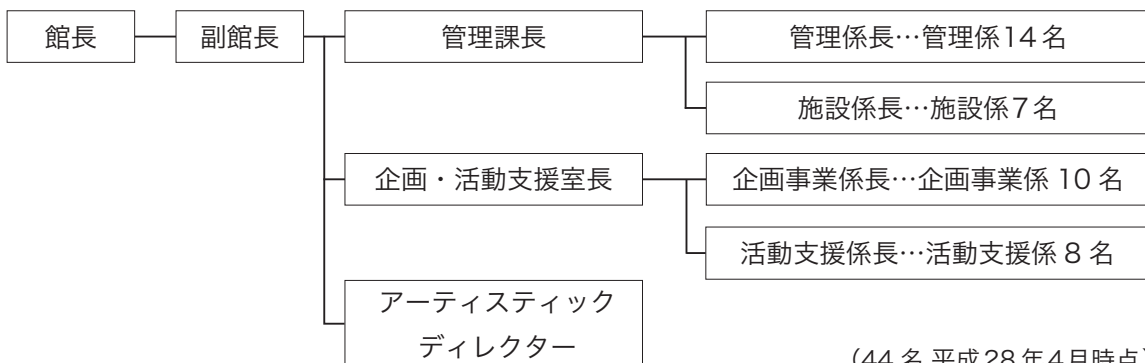
- 所在地 仙台市青葉区春日町2番1号
- 開館時間 9:00—22:00（階により異なる）
- 敷地面積 3,949㎡
- 構造 鉄筋造一部鉄筋コンクリート造地下2階地上7階建
- 延床面積 21,682㎡
- 主な施設内容
 - 地下2階 書庫、収蔵庫、機械室
 - 地下1階 駐車場、書庫
 - 1階プラザ（定禅寺通に開かれた屋内型公開空地、オープンスクエア、カフェ、ショップ）
 - 2階ライブラリー（映像音響資料、児童書、新着新聞雑誌等の閲覧）
 - 3・4階ライブラリー（仙台市民図書館）
 - 5階ギャラリー3300（固定壁面を中心とする天井高3,300mmの展示空間）
 - 6階ギャラリー4200（可動壁面で自由に構成できる天井高4,200mmの展示空間）
 - 7階スタジオ（施設貸出・相談窓口、スタジオシアター、各種スタジオ）

1-2. 沿革

- 平成元年（1989年） 宮城県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の要望書提出。
- 平成4年（1992年） 定禅寺通に図書館を併設した市民ギャラリーを建設する方針が定まる。
- 平成6年（1994年） 市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設とすることが決まる。
- 平成7年（1995年） 設計競技により、伊東豊雄建築設計事務所が選ばれる。
- 平成9年（1997年） 12月着工。平成12年（2000年）8月竣工。
- 平成13年（2001年） 1月26日開館。仙台ひと・まち交流財団が管理（図書館は仙台市直営）。グッドデザイン大賞受賞。
- 平成16年（2004年） 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定。
- 平成19年（2007年） 業務移管により、仙台市市民文化事業団を指定管理者に指定。
- 平成20年（2008年） 館内フロアレイアウトを一部変更。
- 平成23年（2011年） 地域創造大賞受賞。東日本大震災により休館。5月3日から一部再開し、翌年1月27日に全館再開。

1-3. 組織

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
 指定管理者 公益財団法人仙台市市民文化事業団（図書館は仙台市直営）



（44名 平成28年4月時点）

1. 施設の概要 > 1-4. 収支、1-5. 施設使用実績

1-4. 収支

(1) 収入の部

指定管理料 566,713 千円
 事業収入（企画事業、受託事業を含む） 78,314 千円
 《内訳》
 ・補助金 38,939 千円
 ・各種助成金 13,803 千円
 ・入場料等 1,804 千円
 ・受託事業収入 14,581 千円
 ・仙台市市民文化事業団自主財源 5,605 千円
 ・負担金収入 3,582 千円

(2) 支出の部

管理運営費（施設の維持管理、情報サービス事業を含む） 566,713 千円
 事業費（企画事業、受託事業を含む） 78,314 千円

1-5. 施設使用実績

(1) 施設使用実績

施設	貸出単位	利用日数	日数ベース利用率	利用者数
5 階ギャラリー	週	47*	97.9%	127,159
6 階ギャラリー	週	44*	91.7%	118,062
オープンスクエア	日	260	78.5%	92,174
スタジオシアター	1日3区分	200	58.1%	21,883
2 階会議室	1日3区分	315	90.5%	5,676
7 階会議室	1日3区分	342	98.3%	11,249
プラザ控室 a	1日3区分	197	56.6%	1,203
プラザ控室 b	1日3区分	229	65.8%	2,131
託児室	1日3区分	16	4.6%	61

使用料等徴収額 68,959 千円

*5/6 階ギャラリーは週数ベース

(2) 視察等の対応

視察 132 件
 報道（新聞・テレビ・書籍・雑誌）：126 件

(3) その他

博物館実習の受け入れ：5 名
 （宮城学院女子大学、東北芸術工科大学、京都造形芸術大学）

2. 企画事業

メディアを活用した生涯学習活動および文化活動にかかる、展示・上映・ワークショップ等。

2-1. 「調査と表明」事業

国内外で活躍するアーティストや市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題を調査し、その成果を展示を通じて発表することで再び地域に還元するとともに、「考えるテーブル」など人々に開かれた場をしつらえ、主体的な社会参加を文化面から活性化する事業。

《展覧会》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景

会期：2016年11月3日－2017年1月8日

会場：6f ギャラリー 4200

入場・参加者数：7,850名

入場料等：一般 500円（大学生・専門学校生含む）、高校生以下無料（豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額）

共催等：TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ3（以上、後援）

東京都写真美術館、株式会社アマナ、株式会社資生堂、Taka Ishii Gallery（以上、協力）

一般財団法人地域創造、独立行政法人日本芸術文化振興会（以上、助成）

陸前高田市出身の写真家・畠山直哉氏が取り組む「風景」に着目した展覧会。畠山氏の初期から現在までの作品約200点と、震災後、変わりゆくふるさとを毎月撮影してきた「陸前高田」の作品と写真家のメモともいえる「コンタクトシート」を並べて展示しました。また、対談や映画の上映、てつがくカフェを通して、風景が持つ二面性や両義性、畠山氏の表現と現在の社会との関係性を探りました。



ギャラリーツアー（「畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景」関連企画）

会期：2016年11月13日－12月4日

会場：6f ギャラリー 4200

入場・参加者数：のべ10名

入場料等：無料（要展覧会チケット）

担当学芸員の解説とともに展覧会を見るツアーを11月13日と12月4日の2回にわたり実施しました。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

対談 1 佐々木幹郎（詩人）× 畠山直哉（写真家）

「言葉のリアル／イメージのリアル」

（畠山直哉 写真展 まっぴたつの風景 関連企画）

会期：2016年11月3日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：100名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

「表現者の表現方法が3・11以後、一日にして変わることはありません。重要なのはそれ以前に、無意識であれ意識的であれ、本能に沿ってやられていたことが鮮明に見えてくると言うことです」（佐々木幹郎著『瓦礫の下から唄が聴こえる—山小屋便り』くみず書房／2012年）。東日本大震災後、被災地をめぐる詩人の佐々木氏と畠山氏が「写真行為」をテーマに語り合いました。



対談 2 いがらしみきお（漫画家）× 畠山直哉（写真家）

「人工天国 - 現在の風景に何を見るのか？」（要約筆記つき）

（畠山直哉 写真展 まっぴたつの風景 関連企画）

会期：2016年11月23日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：90名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

東北の川や山に囲まれて育った同世代の漫画家・いがらしみきお氏と畠山氏。散歩を日課とし、定点観測のように風景を見つめるいがらし氏と、風や光を読み、釣り人のように風景を撮る畠山氏。移り変わる現在の風景に二人は何を見るのかについて対談しました。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

対談 3 志賀理江子（写真家）× 畠山直哉（写真家）「暗夜光路—写真は何をするのか？—」

（「畠山直哉 写真展 まっぶたつの風景」関連企画）

会期：2016年12月24日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：220名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

3.11をそれぞれの場所で経験した写真家の志賀理江子氏と畠山氏。震災という暗い夜を過ごし、そこからどのような光をみつけたのか。影と光を扱う「写真」という共通の方法で制作を続けてきた二人が「写真は何をするのか」を対談を通じて問いました。



シネマてつがくカフェ 映画『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』から考える

（「畠山直哉 写真展 まっぶたつの風景」関連企画）

会期：2016年11月19日
 会場：7f スタジオシアター、6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：70名
 入場料等：一般500円、高校生以下無料（豊齢手帳・障がい者手帳をお持ちの方は半額）*てつがくカフェは無料（要チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

畠山氏の震災後2年間を追った映画を鑑賞した後、てつがくカフェを行いました。対話のなかでは、「手間をかける／かかる」「過去・現在・未来（心の方角を指す）」「表現者」「風景・ヒト」「時間」といったキーワードが挙がりました。

上映作品：『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』（監督：畠山容平／2016年）。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

てつがくカフェ 『「畠山直哉 まっぶたつの風景」から「割り切れなさ」を問う』

（「畠山直哉 写真展 まっぶたつの風景」関連企画）

会期：2016年12月10日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：40名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

展覧会の関連企画のひとつとして実施したてつがくカフェ。文字通り割り切れなない思いについて対話しつつ、「割り切れなさとは、“ただ”生きていれば“よい”から、どのように生きるか？という疑問が生じたときに生まれてくるもの」という定義にたどり着きました。



てつがくカフェ 『「畠山直哉 まっぶたつの風景」から「明日」を問う』

（「畠山直哉 写真展 まっぶたつの風景」関連企画）

会期：2016年12月25日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：40名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

展覧会の関連企画のひとつとして実施したてつがくカフェ。畠山氏の写真集『陸前高田 2011-2014』の一節を引きつつ、「明日」の意味や明日と私自身との関わり合いなどについて、対話を通じて問いかけました。



《アーティストリサーチ》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《アーティストリサーチ》、
《スタジオ情報発信__考えるテーブル》

study / ヒスロム 活動紹介展示

会期：2017年1月14日ー2月21日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：-
入場料等：無料
共催等：一般財団法人地域創造（助成）

身体を用いて土地の文化を体験的に理解し、映像や写真など多様な形態で表現している作家集団 hyslom(ヒスロム)のこれまでの活動や、2018年に予定している展覧会にむけた制作の過程を展示しました。



《スタジオ情報発信__考えるテーブル》

考えるテーブル てつがくカフェ

会期：2016年5月29日、7月31日、9月25日、12月10日、12月25日、2017年2月18日、3月11日(全7回)
会場：7f スタジオa、6f ギャラリー4200、1f オープンスクエア
入場・参加者数：のべ315名
入場料等：無料
共催等：てつがくカフェ@せんだい(共催)、一般財団法人地域創造（助成）

2011年度から継続し、6年目を迎えた事業。震災にまつわるテーマを掲げ、それをもとに参加者同士で対話を行いました。

《テーマ》

- ・被災地で／から、広域避難者の今を考える
(5月29日／30名)
- ・安全を決めるのは、何／誰か？
(7月31日／58名)
- ・『分ける』を考える
(9月25日／41名)
- ・「畠山直哉 まっぷたつの風景」から「割り切れなさ」を問う
(12月10日／40名)
- ・「畠山直哉 まっぷたつの風景」から「明日」を問う
(12月25日／40名)
- ・震災遺構って何？
(2月18日／45名)
- ・〈記念〉について考える
(3月11日／61名)

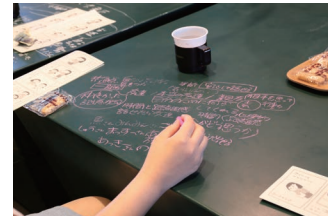


2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

考えるテーブル ユースてつがくカフェ てつこの部屋

会期：2016年7月10日、12月18日（全2回）
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：のべ9名
 入場料等：無料
 共催等：てつがくカフェ @ せんだい（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

てつがくカフェの一環として、中学生・高校生を対象に、「本当の友達って？」「好きって何？」をテーマにしたふたつの対話を行いました。



考えるテーブル シネマてつがくカフェ 映画「未来をなぞる 写真家・畠山直哉」から考える

（再掲）

考えるテーブル どこコレ？

（「どこコレ？—おしえてください昭和ののセンダイ—」関連企画）

会期：2016年6月25日
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：のべ23名
 入場料等：無料
 共催等：NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台（協働）、一般財団法人地域創造（助成）

NPO 法人 20 世紀アーカイブが集めた、詳細がわからない昭和時代の仙台の写真・8 ミリ映像を展示し、来館者の記憶を頼りに情報を集め、場所や年代を調べる「どこコレ？」にあわせ、考えるテーブルで話し合いました。



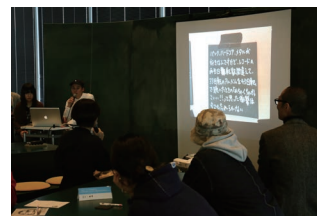
2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

考えるテーブル ぐるい音楽室 第7回「No records ～つくろう地域の音楽ヒストリー～」

（『ぐるい音楽室』展 ローカルレコード feat. レコ袋 関連企画）

会期：2016年10月23日
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：15名
 入場料等：無料
 共催等：宮城アナログ文化協会（共催）、
 一般財団法人地域創造（助成）

2016年9月25日から10月30日に開催した『ぐるい音楽室』展ローカルレコード feat. レコ袋」にあわせ、宮城アナログ文化協会が集めたCD・レコードショップの袋をもとに、参加者と一緒に話し合いました。



考えるテーブル 3.11 キヲクの記録 公開サロン

（「みつづける、あの日からの風景」関連企画）

会期：2016年11月20日（第16回）、
 2017年3月11日（第17回）
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：のべ64名（24名、40名）
 入場料等：無料
 共催等：3.11 オモイデアーカイブ（共催）、
 一般財団法人地域創造（助成）

2012年から続く事業。第16回では、3.11 定点撮影プロジェクト「みつづける、あの日からの風景」で展示された定点観測写真の中から抜粋された写真（パネル）を見ながら語り合いました。そして、震災から6年の区切りの日となった第17回では、定点観測写真を撮影してきた方々をゲストに迎え、撮影者の思い、今後の展望や活動などについて



考えるテーブル ラジオてつがくカフェ

（『星空と路』上映室 関連企画）

会期：2017年2月25日
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：17名
 入場料等：無料
 共催等：てつがくカフェ @ せんだい（共催）、
 一般財団法人地域創造（助成）

『「星空と路」上映室』での上映作品『相馬クロニクル』をもとに、高校生の視点から震災や原発事故を見つめた3つの音声記録を聴いたあと参加者同士で語り合いました。

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

考えるテーブル 民話ゆうわ座

（「民話 声の図書室」関連企画）

会期：2017年3月12日
会場：1f オープンスクエア
入場・参加者数：183名
入場料等：無料
共催等：民話 声の図書室プロジェクトチーム（共催）

古くからたくさん語られてきたけれど、あまり表立って扱われてこなかった民話「食わず女房」をとおして、先祖はなにを伝えようとし、なにを託そうとしたのか、集まったみなさんとともに考えました。



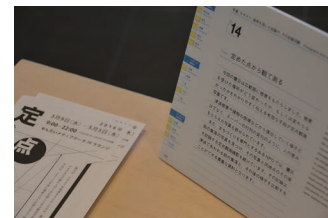
《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業
> 《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

ラウンジ交流展示 定めた点から観て測る

会期：2016年3月9日－5月5日(2015年度から継続)
会場：7f スタジオ a
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台（協力）、一般財団法人地域創造（助成）

3.11 定点観測写真アーカイブ・プロジェクトの一環として、震災前と震災後のふたつの視点を軸に、個人やグループで記録した写真を展示するシリーズ。震災前の街並みや暮らしの写真と、同じ場所の震災後の写真を比べた定点観測写真を紹介しました。



ラウンジ交流展示 どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—

会期：2016年4月29日－5月5日（前期）、5月7日－6月26日（後期）
会場：1f オープンスクエア（前期）、7f ラウンジ（後期）
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台（協力）、一般財団法人地域創造（助成）

2012 年度から続いているプロジェクト。仙台のどこかではあるけれども詳細がわからない古い写真や映像を展示し、来場者の記憶や証言をもとに、それら写真の場所や年代を明らかにしました。



ラウンジ交流展示 2011.3.11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた《いつたえ、むかしばなし、はなし》—その4—

（「民話 声の図書室」関連企画）

会期：2016年7月15日－8月28日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

2013 年度から 4 回目。民話の語り手を訪ね、その土地に伝承された民話を聞き歩く活動を約 45 年にわたり続けてきた「みやぎ民話の会」。その有志メンバーが、津波で大きな被害を受けた宮城県本吉郡南三陸町歌津を中心に、かつてその浜で語られた民話をパネルで紹介しました。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業
> 《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

ラウンジ交流展示 「くろい音楽室」展 ローカルレコード feat. レコ袋

会期：2016年9月25日－10月30日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：宮城アナログ文化協会（共催）、
一般財団法人地域創造（助成）

2012年度から続くプロジェクト。
今回は主に仙台市内におけるCD・
レコード店のショッポ袋の展示を行
い、来場者のエピソードとともに、
地域における音楽文化とそれらにま
つわる記憶を記録しました。



ラウンジ交流展示 巨石装置「五本松」展—陸前高田 森の前地区からの表出—

会期：2016年11月4日－11月16日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：佐藤徳政（クリエイティブ集団
FIVED）（共催）、一般財団法人地域創造
（助成）

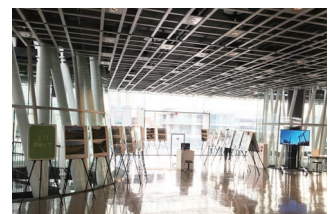
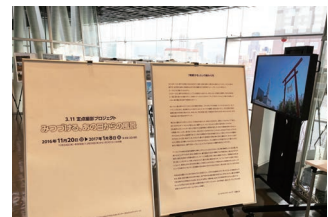
東日本大震災により家屋が全てなく
なった岩手県陸前高田市森の前地
区。人びとのよりどころであった「五
本松」も残されたのは「巨石」のみ。
シンボル、プレイグラウンド、そし
て記憶などの装置である「巨石」を
核に、震災前の伝統や文化の伝承と
新たな表現を模索している佐藤徳政
氏の活動を紹介しました。



ラウンジ交流展示 3.11 定点撮影プロジェクト「みつづける、あの日からの風景」

会期：2016年11月20日－2017年1月
8日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：3.11オモイデアーカイブ（共催）、
一般財団法人地域創造（助成）

3.11 から5年の節目を経て、復興
工事によりまちが大きく変貌を遂げ
るなか、生活の痕跡の消失が、2度
目のふるさと喪失をもたらしている
かもしれません。「震災の風化」が
現実味を帯びるいま、震災直後から、
まちはどのように形を変えながら復
旧・復興の道を歩んできたのか。そ
の変化を定点撮影で紹介しました。



《地域文化アーカイブ》

2. 企画事業> 2-2. 発信・活用推進事業> 《地域文化アーカイブ》

ことりTV

仙台 CATV で放送する番組「ことりTV」のディレクターとして、仙台の人や出来事を紹介する番組づくりに取り組みました。制作番組数12本。



民話 声の図書室

2012年度から引き続き、民話 声の図書室プロジェクトとの協働により、みやぎ民話の会が45年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声の資料化、また、あらたな記録活動を進め、考えるテーブルでの「民話ゆうわ座」や、ラウンジ交流展示「2011.3.11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた《いつたえ、むかしばなし、はなし》—その4—」の開催のほか、DVD5本を制作しました。



どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—

2012年度から引き続き、NPO 法人 20世紀アーカイブ仙台との協働し、詳細が不明だった仙台の古い写真のアーカイブに取り組みました。その実践として、考えるテーブルやラウンジ交流展示を行いました。



2-2. 発信・活用推進事業

各種団体との連携を通じて地域における役割を担うとともに、市民図書館をふくめたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性化を図る事業。

《バリアフリー・デザイン》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《バリアフリー・デザイン》

バリアフリー上映「蝉しぐれ」

会期：2016年5月29日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：のべ243名（2回上映）
 入場料等：無料
 共催等：—

ボランティアの制作により、目の不自由なかが楽しめる音声解説、耳の不自由なかが楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

《上映作品》

「蝉しぐれ」（監督：黒土三男／2005年）



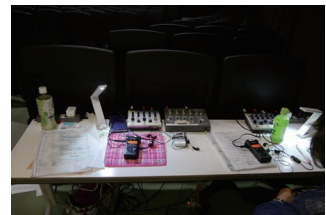
バリアフリー上映「運命じゃない人」

会期：2016年11月27日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：のべ84名（2回上映）
 入場料等：無料
 共催等：—

ボランティアの制作により、目の不自由なかが楽しめる音声解説、耳の不自由なかが楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

《上映作品》

「運命じゃない人」（監督：内田けんじ／2004年）



点訳ボランティアステップアップ研修会「点図作成の基礎」

会期：2016年9月12日、13日
 会場：7f スタジオb
 入場・参加者数：のべ28名
 入場料等：無料
 共催等：—

点訳ボランティアを対象としたスキルアップ研修会。全国視覚障害者情報提供施設協会・点訳委員会委員長の加藤三保子氏を講師に招き、視覚的情報を含む資料など、多様な情報の的確な点訳と校正について、事例演習を通して学びました。

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《バリアフリー・デザイン》、《館長発信事業》

点訳ボランティアステップアップ研修会「点訳の表記と校正」

会期：2017年3月1日、3日
 会場：7f スタジオ b、c
 入場・参加者数：14名
 入場料等：無料
 共催等：日本社会福祉弘済会（助成）

点訳ボランティアを対象としたスキルアップ研修会。宮城教育大学の長尾博氏を講師に招き、点図についての基礎知識と、制作用ソフト「エーデル」の操作技術について事例演習を通して学びました。



《館長発信事業》

鷲田清一とともに考える

会期：2017年1月22日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：314名
 入場料等：無料
 共催等：—

2014年度から続く、当館館長で哲学者の鷲田清一が、各分野のプロフェッショナルと語り合うシリーズの6回目。政治思想史や政治哲学の研究者である宇野重規氏をゲストに迎え、「探していたものは、前からずっとここにあったのではないか」をテーマに、現代におけるデモクラシーのあり方について考えました。



《地域文化連携》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《地域文化連携》

ショートピース！仙台短篇映画祭 2016

会期：2016年9月17日-19日
 会場：7f スタジオシアター、1f オープン
 スクエア
 入場・参加者数：1,059名
 入場料等：前売券＝全日フリーパス
 3,000円、3プログラム回数券 2,500
 円 当日券＝1プログラム券 1,000円(高
 校生以下、豊齢・障害者手帳等で800円)、
 ほか
 共催等：仙台短篇映画祭実行委員会(共催)

今回で16回目。東日本大震災関連
 作品、「新しい才能に会う」と題
 した公募作品、また、バリアフリー
 上映などを、多彩なゲストを招きつ
 つ行いました。

《上映作品》

「想いのかけら」（制作：NHK エ
 ンタープライズアニメーション/
 2016年）、「昼も夜も」（監督：塩
 田明彦／2014年）、「犬に名前を
 つける日」（監督：山田あかね/
 2015年）、「ドラムマンズ バチがも
 たらす予期せぬ出来事」（監督：田
 中要次／2015年）ほか。

《ゲスト》

篠崎誠、塩田明彦、渡邊琢磨、田中
 要次、片岡翔、安野希世乃、浅尾芳
 宣、酒井麻衣、浅井一仁、丸山夏
 奈、高畑鋏名、滝野弘仁、藤木裕介、
 Riva ほか。



せんだいデザインリーグ 2017 卒業設計日本一決定戦

会期：2016年3月5日-12日
 会場：1f オープンスクエア、5f ギャラ
 リー 3300、6f ギャラリー 4200、7f
 スタジオシアター、7f スタジオ a、スタ
 ジオ b
 入場・参加者数：5,828名
 入場料等：無料
 共催等：仙台建築都市学生会議(共催)

15回目を迎える、建築を学ぶ学生
 たちの卒業設計が一堂に会し、日本
 一を決めるイベント。

《審査員》

千葉学（審査員長）、木下庸子、谷
 尻誠、豊田啓介、川島範久、浅子佳
 英、中田千彦

《入賞作》

日本一：何競飛（東京大学）『剥キ
 出シノ生 - 軟禁都市 -』、日本二：加
 藤有里（慶應義塾大学）『Phantom
 ～ミュージカル「オペラの座の怪人」
 の多解釈を誘発する仮設移動型劇場
 ～』、日本三：小澤巧太郎（名古屋
 大学）『COWTOPIA - 街型牛舎の
 再興 -』



定禅寺通りイベント共催等事業等

ストリートに開かれた場として、定禅寺通りを中心に開催されているイベントと連携・協力しました。

a) 仙台・青葉まつり協賛会との連携

今回で32回目となる「仙台・青葉まつり」にあわせ、2016年5月14-15日に1fオープンスクエアにて、青葉まつりの歴史紹介や、すずめ踊りの参加祭連の紹介、演舞披露を行いました。



b) とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI との連携

「みんなちがって、みんないい」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、「心のバリアフリー」を目指す「とっておきの音楽祭」にあわせ、1fオープンスクエアを会場としたイベントを行いました。



- ・スペシャルライブ
(2016年4月17日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：400名)
- ・本祭開催時の会場
(2016年6月5日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：1,317名)



c) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会との連携

今回で26回目を迎える「定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」にあわせ、夏の交流ライブほか、本祭時にはメディアテーク・ステージを開設しました。

- ・交流ライブ
(2016年7月17-18日 / 1f オープンスクエア / 来場者：1,185名)
- ・本祭開催時の会場
(2016年9月9-11日 / 1f オープンスクエア / 来場者：8,493名)

《施設活用推進》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《施設活用推進》

図+(とぶらす)・ウィーク

会期:2016年7月31日ー8月6日
 会場:1f オープンスクエア、2f 映像音響
 ライブラリー、図書館
 入場・参加者数:5,053名
 入場料等:無料
 共催等:仙台市民図書館(共催)

トークイベントに関連する本や、十代が選んだ本など、さまざまな切り口での資料展示や、名取市・多賀城市そして市民図書館の館長による鼎談、活版印刷や本のポップづくりのワークショップから子ども向けの工作教室、外国絵本や手話によるおはなし会など、館内の本や映像資料を軸として、借りて読む・見るだけではない多様なプログラムを行いました。



スクエア図書館

会期:2016年5月10日ー12日、
 7月11ー14日
 会場:1f オープンスクエア
 入場・参加者数:のべ2,115名(1,710
 名、405名)
 入場料等:無料
 共催等:仙台市民図書館(共催)

オープンスクエアの遊休日を利用して、図書館所蔵の本から司書おすすめの本を手に取りながらくつろげる空間を作りました。今年度は「ちょっと手が届きにくい本」「カタログでめぐる展覧会」をテーマに2回実施。



2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」

優れた現代アートの持つ力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合う事業。

《地域展開事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《地域展開事業》

川俣正／仙台インプログレス

会期：2016年7月ー（継続）
会場：仙台市沿岸部
入場・参加者数：ー
入場料等：ー
共催等：都市デザインワークス、各種復興関連団体

地域住民との協働制作を展開してきたアーティスト・川俣正氏を迎えて、仙台市沿岸部の課題に長期的に向き合うプロジェクトに着手し、今年度はリサーチ主体の活動から、宮城野区沿岸部でのプロジェクトを提案しました。また、川俣氏と建築評論家の五十嵐太郎氏を迎えて「TALK：川俣正のアートプロジェクト」を行いました（7月27日／地下鉄東西線国際センター駅2階／参加180名）。



こどもアートひろば「アッペトッペ=オガル・カタカナシ記念公園」

会期：2016年12月15ー26日（調査：6月ー10月、滞在制作：11月4日ー12月29日／荒浜地区にて）
会場：仙台市地下鉄東西線国際センター駅2階青葉の風テラス
入場・参加者数：のべ6,000名
入場料等：無料
共催等：SOMPOアートファンド（助成）

大正時代にスズキヘキや天江富彌が中心となって展開した仙台の児童文化運動に触発された美術家KOSUGE1-16が、当時の活動を現代の感覚でなぞり、同時代の芸術家や子どもたちと、うた（童謡）やおはなし、造形物やアニメーションを制作しました。展示会場には詩人スズキヘキの「カタカナシ（詩）」にちなんだカタカナ文字型遊具作品を配置し、子どもの遊び場となる公園的空間を作り出すとともに、「会屋」と呼ばれた天江富彌のユニークな祭りにちなんだ様々なイベントを開催しました。
《参加作家》ハナカタマサキ、タノタイガ、磯崎道佳、こけしぼっこ、イトウユウコ、プレジャーマーケット出演団体ほか



《会期中のイベント》
「外国絵本のおはなし会」
（12月17日／参加者数：42名）
「ほやちようちんのお出迎え」
（12月18日／参加者数：34名）
「こけしぼっこのこけし劇ーこけしが語る宮城の民話ー」
（12月18日／参加者数115名）
「おがる彫／カタカナシ記念トーク」
（12月23日／参加者数29名）
「プレジャーマーケット @ カタカナシ記念公園」
（12月25日／参加者数456名）
「ハナカタマサキライブ」
（12月25日／参加者数：119名）

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《地域展開事業》

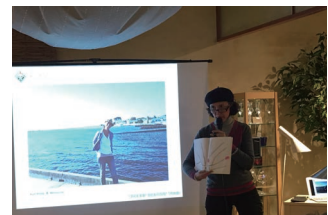
仙台商人プロジェクト

会期：2016年8月ー（継続）
会場：仙台中心市街地
入場・参加者数：ー
入場料等：ー
共催等：森の香本舗、永楽園、プリンカンパニー、東北生活文化大学高等学校、すし哲、矢部園茶舗（以上、協力）

コーディネーターに吉川由美氏を迎え、アーティストのスー・ハイドウ（Sue Hajdu）氏とともに、「仙台商人」を鍵に街のアイデンティティを探るプロジェクトに着手し、今年度はリサーチとともに「仙台商人トーク」を4回実施しました。

《トークの内容》

- ・「和菓子を創る」（2017年1月23日／会場：甘味処彦いち／29名）
- ・「仙台商人水掛談義」（2月11日／会場：バーゼキャバレークラブ／20名）
- ・「スー・ハイドウによるトーク」（2月22日／会場：家具の大丸／30名）
- ・「鮭、茶、風土、そして人」（3月16日／会場：河北新報社／35名）



TRAC 東北リサーチとアートセンター

会期：2016年4月ー（継続）
会場：仙台中西公園エリア
入場・参加者数：ー
入場料等：ー
共催等：やわらかな土から（TRAC運営パートナー。構成団体：一般社団法人NOOK、NPO法人20世紀アーカイブ仙台、NPO法人エイブルアートジャパン）

東北の文化・営みについて、住民の協力を得ながら現地調査し、その過程や調査結果を素材として作品を製作するアーティストの活動場所をつくる事業。今年度は、鈴木一朗太氏（株式会社大と小とレフ）、伊達伸朗氏（美術家）を迎えてモデル事業を行いました。そして、地下鉄東西線大町西公園駅近くの物件をリノベーションし「TRAC 東北リサーチとアートセンター」の開設準備を行いました。



《コミュニケーション事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

TALK（トーク）

アートノード・プロジェクトに関わるアーティストや専門家によるトークイベント。仙台で現代アートに関わる活動をしている前野久美子氏 (book cafe 火星の庭)、関本欣哉氏 (ギャラリー・ターンアラウンド)、桃生和成氏 (一般社団法人 Granny Rideto / つれづれ団) をパートナーに企画しました。



《実施内容》

・川俣正のアートプロジェクト

(再掲 / 「川俣正 / 仙台インプログレス」 関連事業)

・岸野雄一の「地下鉄駅で聞く、踊る。」

会期: 2016年11月3日

会場: 地下鉄東西線国際センター駅 2階
青葉の風テラス

入場・参加者数: 110名

入場料等: 無料

企画運営: book cafe 火星の庭

長年、音楽や映像などさまざまなジャンルで多様な活動を続けてきた岸野雄一氏をゲストに、土地や地場の関係性に根づいているものを楽しみながら再考／更新する試みについて話しました。



・前岡義人 × スーザン・ピーチ「ベルリンのアートシーン

～ドイツ・コンテンポラリージュエリーの最前線」

会期: 2016年11月17日

会場: arrondissement+ Cy

入場・参加者数: 110名

入場料等: 500円

企画運営: ギャラリー・ターンアラウンド

ベルリン在住12年のキュレーター前岡義人氏が、街の変遷と現代美術の最先端について語りました。また、同氏が注目するドイツのコンテンポラリージュエリーシーンを牽引する Schmuck2 のスーザン・ピーチさんもオンラインで登壇しました。



・成田大致「破壊なくして創造なし

「AOMORI ROCK FESTIVAL 夏の魔物」の10年を語る。」

会期: 2016年11月27日

会場: THE6

入場・参加者数: 32名

入場料等: 1000円

企画運営: 桃生和茂 (一般社団法人 Granny Rideto)

地元青森にて弱冠19歳で初めてのロックフェス「AOMORI ROCK FESTIVAL 夏の魔物」を企画した成田大致氏が、その活動の原点について語りました。

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

・藤浩志「増え続けるゴミと格闘する」

会期：2016年12月5日
会場：せんだいメディアテーク7階スタジオb
入場・参加者数：50名
入場料等：1,000円

アーティスト・藤浩志氏を招き、家庭生活の廃棄物を捨てない実験「家庭内ゴミゼロエミッション」をはじめから、廃棄物との20年の格闘の歴史をお話しいただきました。



・「完全アナログ映像制作夜話
孤高のアウトサイダーアーティスト・伊勢田勝行」

会期：2016年12月17日
会場：THE6
入場・参加者数：50名
入場料等：1,000円
企画運営：一般社団法人Granny Rideto

神戸より特撮映像作家の伊勢田勝行氏をお招きして、原作、作画、声優、音楽、演出、監督などを全て一人でこなす制作現場の裏側についてお話しいただきました。



・かないみき ベルリン、そしてヨーロッパの現場から
— 芸術と社会の相関関係

会期：2017年1月13日
会場：ギャラリー・ターンアラウンド
入場・参加者数：28名
入場料等：無料
企画運営：ギャラリー・ターンアラウンド

ベルリンを拠点に、ヨーロッパで活動続けるアート・ジャーナリスト、かないみき氏を招き、ベルリンのオルタナティブ・スペースや、アーティストたちの活動、コマーシャル・ギャラリーの状況をはじめ、最新のヨーロッパのアートの動向について、五十嵐太郎さんが聞き手となって話をうかがいました。



・Bar 映画館「わたしのスターを語る」

会期：2017年1月27日
会場：桜井薬局セントラルホール
入場・参加者数：40名
入場料等：1,000円（ドリンク別）
企画運営：book cafe 火星の庭

仙台・宮城で独創的な場作りをしている3人が、それぞれのスター（映画に限らず多大な影響を受けた敬愛する存在）について話しました。また、映画館内にはバーカウンターを設け、飲み物を提供。トークの合間には「仙臺文化」と20世紀アーカイブ仙台的提供による昭和の盛り場風景を映写しました。

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

・鴻池朋子「どうぶつのことば ～根源的暴力をこえて～」

会期：2017年2月5日
会場：地下鉄東西線国際センター駅2階
青葉の風テラス
入場・参加者数：72名
入場料等：1,000円
企画運営：book cafe 火星の庭

架空の動物や神話的界を表現し、心をとらえて離さないエネルギーに満ちた作品で国内外で高い評価を得ている鴻池朋子氏。聞き手にキュレーターの長内綾子氏を迎え、自身の作品のことについて語りました。



・山川冬樹 レクチャー・パフォーマンス「身体と空間のレゾナンス」

会期：2017年2月25日
会場：ギャラリー・ターンアラウンド
入場・参加者数：35名
入場料等：1,000円
企画運営：ギャラリー・ターンアラウンド

ホームメイ歌手で現代美術家の山川冬樹氏が、これまでの活動と作品に関して語るとともに、パフォーマンスを行いました。聞き手：千石英世氏（文学者／文芸評論家）。



森村泰昌 × 鷺田清一 青少年の生きる技術としてのゲージツ学校

会期：2016年5月15日（ガイダンス）、6月1日（オリエンテーション）、6-7月（制作）、7月23日（ツアー）、8月6-7日（発表と対話）
会場：江陽パルサービル、志賀理江子アトリエ、せんだいメディアテーク
入場・参加者数：のべ486名
入場料等：—
共催等：—

美術家の森村泰昌氏と鷺田清一館長、アーティストのタノタイガ氏を講師に、高校生を対象とした美術講座を行い、「ナイトクラブをアートが生まれる場所にせよ」という課題に取り組みました。



2. 企画事業> 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

アートノード・ミーティング

会期：2016年10月2日（第1回）、
2017年2月19日（第2回）
会場：メディアテーク 1f オープンスクエ
ア、7f スタジオ a
入場・参加者数：のべ 209 名（159 名、
50 名）
入場料等：—
共催等：—

アート・ノード・プロジェクト全体
にかかる公開ミーティングを行いま
した。第1回は「アートは心地よ
いもの？」をテーマに、鷲田清一館
長がファシリテーターとなり、てつ
がくカフェ方式で行いました。第2
回は「アッペトッペ=オガル・カタ
カナシ記念公園」の KOSUGE1-16
と当館アーティスティック・ディレ
クターの甲斐賢治が同展を振り返り
ました。



JOURNAL (ジャーナル)

アート・ノード・プロジェクトについて広く伝えるとともに、地域の資源
や課題と現代アートの関係を可視化・記録していく印刷物を発行しました。
第0号(2016年9月)、第1号(2017年2月)。編集：(株)コミュニナ、
デザイン：ホームシックデザイン。



2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

指定管理業務に加え、各種機関との共催や、仙台市市民文化事業団自主財源による事業。

2. 企画事業 > 2-4 その他事業

シネバトル わたしのイチ押し映画（シネ）はコレよ！

会期：2016年6月29日、8月31日、
10月26日、12月21日（全4回）
会場：2f 映像音響ライブラリー
入場・参加者数：のべ154名（40名、
35名、29名、50名）
入場料等：無料
共催等：—

2013年度から続き、第12-14回
を実施しました。毎回、登壇者そ
れぞれが3分間で紹介する映画か
ら、参加者の投票により一番見たい
映画を決めたほか、さらに、12月
21日には今年度（vol.12-14）の
金賞・銀賞受賞者が再度集まるグラ
ンドチャンピオン大会も行い、『バ
バドック 暗闇の魔物』（監督：ジェ
ニファー・ケント／2014年）を
推した木村剛氏が選ばれました。



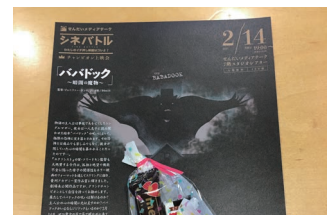
シネバトル わたしのイチオシ映画（シネ）はコレよ！ チャンピオン上映会

会期：2016年7月3日、2017年2月
14日（全2回）
会場：7f スタジオシアター
入場・参加者数：のべ130名（89名、
41名）
入場料等：無料
共催等：—

3分の制限時間で映画を紹介しあ
い、参加者が一番見たくなった作品
を投票で決める「シネバトル」。そ
の2015年度、2016年度それぞ
れのグランドチャンピオンが推薦す
る映画を上映しました。

《上映作品》

- ・『ダスト』（監督：ミルチョ・マンチェ
フスキー／2001年／2016年7
月3日上映）
- ・『ババドック 暗闇の魔物』（監督：
ジェニファー・ケント／2014年
／2017年2月14日上映）



こどもスクエア

会期：2017年2月11日～14日
会場：メディアテーク 1f オープンスクエア
入場・参加者数：1,047名
入場料等：無料
共催等：—

段ボールのトンネルや島に見立てたカーペットで空間を構成し、小さな子どもたちが安心して遊ぶことのできる場をつくりました。



活版印刷工房

会期：2016年7月31日～8月6日（とぶらす・ウィーク期間中）、12月18日、2017年1月15日、2月19日、3月26日
会場：地下1階準備室
入場・参加者数：のべ148名
入場料等：無料
共催等：活版印刷研究会（協働）

活版印刷研究会と協働し、当館で所蔵する活版印刷の活字や道具、手フット印刷機を使ったワークショップや、「図+（とぶらす）・ウィーク」での展示等を行いました。



TALK（トーク）

（再掲／仙台市市民文化事業団 30 周年記念事業）

森村泰昌 × 鷺田清一 青少年のための生きる技術としてのゲージツ学校

（再掲／仙台市市民文化事業団 30 周年記念事業）

SMMA 仙台・宮城ミュージアムアライアンス

（ミュージアム活性化事業／指定管理事業）

仙台を中心とした博物館施設の共同事業体（2016 年度 16 施設）の事務局を担い、ウェブサイトの運営等を行ったほか、当館 1f オープンスクエアに参加館が一堂に会し、専門家によるトークや体験講座を行う「ミュージアム・ユニバース—すてき・ふしぎ・おもしろい—」（2016 年 12 月 17 日・18 日／入場者数：2,110 名）を開催しました。



熊本地震支援『うつくしいひと』上映+行定勲監督トーク

会期：2016 年 6 月 19 日
 会場：会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：102 名
 入場料等：1,000 円
 共催等：『うつくしいひと』熊本支援上映会（コミュニティシネマセンター）

偶然にも熊本地震の前年につくられた、熊本を舞台に同県出身の映画人によってつくられた映画「うつくしいひと」の上映と、同作監督の行定勲氏を招いてトークを行いました。上映のあとのトークでは、行定監督が地元・熊本の現状を伝えるとともに、同作へこめた郷里への思いを語りました。



3. 受託事業

仙台市より受託した事業。

3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

2011年度から継続して、市民、専門家らとの協働により、東日本大震災に関する写真・映像・音声を、記録・発信。

3. 受託事業＞3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

震災と暮らし—震災遺産と人びとの記録からふりかえる—

会期：2016年12月12日－25日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：8,081名
 入場料等：無料
 共催等：震災遺産保全プロジェクト実行委員会（共催）、平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（ふくしま震災遺産保全プロジェクト）

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会」が保存してきた資料や写真パネルと、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の参加者が記録してきた映像・写真等を紹介し、「暮らし」から震災を振り返る展覧会を開催しました。



トークイベント「残されたものの意味を探る」

（「震災と暮らし」関連企画）

会期：2016年12月24日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：147名
 入場料等：無料
 共催等：震災遺産保全プロジェクト実行委員会（共催）、平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（ふくしま震災遺産保全プロジェクト）

「震災と暮らし」展の関連イベントとして、IZU PHOTO MUSEUMの小原真史氏による講演を行い、残されたものの意味と、それらを残していく活動について考えました。



「星空と路」上映室

会期：2017年2月25日－5月7日
 会場：7fラウンジ、1f オープンスクエア（3月9日－12日のみ）
 入場・参加者数：3,529名
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災から6年が過ぎようとしています。これまでに寄せられた「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の参加者による写真・パネル等の記録群の一部を展示しました。

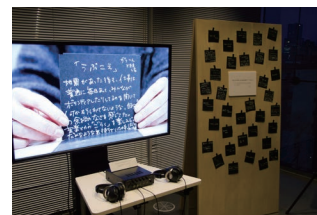


3. 受託事業＞3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

「星空と路」資料室

会期：2017年2月25日－5月7日
 会場：7f スタジオシアター、1f オープン
 スクエア（3月9日－12日のみ）
 入場・参加者数：3,529名
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災から6年が過ぎよう
 としています。これまでに寄せられ
 た「3がつ11にちをわすれないた
 めにセンター」の参加者による写真・
 パネル等の記録群の一部を展示しま
 した。



わすれん TV311 リアルふっこうボイス

会期：2017年3月13日
 会場：7f スタジオ
 入場・参加者数：105名（視聴数）
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災の被害にあわれた住民
 や支援者など、復興まちづくりに携
 わる様々な方の想いを生の声で記
 録・発信すると同時に、復興まちづ
 くりに関わるメンバーが、それらの
 声や被災地の復興の現状をホンネで
 話し合う番組。第39回目となった
 今回は「再興から6年のこえ」をテー
 マに話し合いました。

3.11 定点撮影プロジェクト「みつづける、あの日からの風景」

（再掲）

巨石装置「五本松」展 一陸前高田 森の前地区からの表出—

（再掲）

考えるテーブル 3.11 キヲクのキロク 公開サロン

（再掲）

4. 情報サービス事業

各種ライブラリーでの資料提供や情報メディア活用の支援。

4. 情報サービス事業> 4-1. 映像音響ライブラリー、4-2. 教材ライブラリー、
4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）、4-4. 地域映像ライブラリー

4-1. 映像音響ライブラリー

資料点数 12,850 点

貸出点数 66,802 点

新規登録数 601 点

4-2. 教材ライブラリー

資料点数 4,623 点

資料貸出点数 394 点

機材貸出点数 441 点

4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）

資料点数 5,946 点

貸出件数 2,891 件

対面朗読件数 310 件

音訳・点訳件数 12 件

音声読み上げパソコン利用件数 1 件

音訳所蔵資料制作件数 30 タイトル

（利用者依頼 3 件、メディアテーク登録所蔵資料 15 件、情報誌 12 件）

点訳所蔵資料制作件数 55 タイトル

（利用者依頼 9 件、視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」登録 32 件、メディアテーク資料 15 件）

4-4. 地域映像ライブラリー

資料点数 16 点

4. 情報サービス事業 > 4-5. デジタルアーカイブ事業、4-6. 活動支援事業

4-5. デジタルアーカイブ事業

《アーカイブ作成活動事業》（smt コレクション）

主催事業の記録映像、スタジオを拠点とした市民グループ等との協働による映像、そして、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動を通じて制作された東日本大震災にまつわる映像をDVDパッケージにし、映像音響ライブラリーおよび教材ライブラリーで公開したほか、ライブラリー利用登録者にとどまらず、内外の報道・研究、上映会等のための貸出を行いました。（今年度 55 タイトル／累計 258 タイトル）



《そのほかのアーカイブ事業》（過去年度に構築したアーカイブの運用）

仙台市内の公共施設による市民活動のチラシを流通する「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト」に寄せられたチラシの電子化 (<http://smt.jp/honepuro/>) や、ミュージアムと地域人材が連携したアーカイブ「レコーダ」 (<http://recorda.jp/>) の運用を行いました。

4-6. 活動支援事業

学校連携事業

仙台市小学校教育研究会図画工作部会と連携し、実技研修会「コマ撮りアニメーションを作ろう！」への講師派遣、および、仙台市内の小中学校 14 校への機材貸出を行いました（参加した児童生徒数 893 名）。また、全国造形教育研究大会宮城大会（2016 年 11 月 10・11 日）での研究授業に協力しました。



音声パソコン入門講座

会期：2016年11月12日（土）、13日（日）、19日（土）、20日（日）
 会場：2階会議室
 入場・参加者数：12名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市視聴覚障害者福祉協会（協力）

目の不自由な方を対象として、音声パソコンの基本操作、文字入力の方法、ホームページの閲覧、電子メールの送受信などを学ぶ講習を行いました。

4. 情報サービス事業 > 4-5. デジタルアーカイブ事業、4-6. 活動支援事業

音声パソコンステップアップ講座

会期：2017年7月2日－7月3日、2月18日－2月19日
 会場：2階会議室
 入場・参加者数：18名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市視聴覚障害者福祉協会（協力）

目の不自由な方を対象として、音声パソコンの講習を行いました。

音訳ボランティア研修（基礎編）

会期：2017年8月7日・21日・28日、8月9日・23日・9月27日（同内容の研修を2回実施）
 会場：7f 会議室
 入場・参加者数：のべ26名
 入場料等：無料
 共催等：日本社会福祉弘済会（助成）

主に対面朗読を行っているボランティアの方を対象として、基本～中級の読み方について研修しました。

音訳ボランティア研修（発展編）

会期：2017年12月7日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：50名
 入場料等：無料
 共催等：日本社会福祉弘済会（助成）

目の不自由な方をサポートする音訳ボランティアの方を対象として、聴き取りやすい読み方について研修しました。

音訳ボランティア研修（特別編）

会期：2017年10月4日－10月5日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：82名
 入場料等：無料
 共催等：日本社会福祉弘済会（助成）

実際の取扱説明書の一部を題材に、視覚障害者にとってわかりやすい解説を実践的に学びました。

メディアスタディーズ

公募により選ばれたプロジェクトの方々との協働により、7階スタジオを拠点とし、地域の歴史や文化をデジタル・アーカイブとして残していく活動や、そのための企画・編集作業など、メディアを使った創作と実践に取り組みました。

《プロジェクトと協働者》

- ・ くるい音楽室（宮城アナログ文化協会）
- ・ ヤングファーマー農宴～おらとあんだとくいもんと～（宮城県農村青少年クラブ連絡協議会）
- ・ おほはしア라운드（地域探検隊-TTT-）
- ・ みやぎシネマクラドル（みやぎシネマクラドル）
- ・ 仙台前衛藝術の足跡を巡る（仙台ダダ外部調査委員会）
- ・ 知る 続く 在来作物プロジェクト（みやぎ在来作物研究会）
- ・ プロジェクション・せんだい（プロジェクション・せんだい）
- ・ 細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ（寺崎英子写真集刊行委員会）
- ・ まつりの準備－相馬野馬追（岩崎考正）
- ・ カミングアウト／クローゼット（レインボーアーカイブ東北）
- ・ 失われた村の風景を記憶しなおす（『失われた風景を記憶しなおす』プロジェクト）
- ・ 遠い火 | 山の終戦（小森はるか＋瀬尾夏美）
- ・ みんな映像工房（酒井耕）
- ・ Sendai.log（Sendai.log）

5. 配布・刊行物等

今年度、当館で制作し、配布・刊行した冊子や映像音響資料、通信等。

5. 配布・刊行物等> 5-1. 書籍や報告書等の印刷物、5-2. DVDメディア等の映像音響資料、5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等、5-4. その他常備している印刷物

5-1. 書籍や報告書等の印刷物

『てつがくカフェ〈ふるさと〉を失う?』（冊子）



5-2. DVDメディア等の映像音響資料

smt コレクション DVD（55 タイトル）

《内訳》

- ・メディアテーク事業記録（48 タイトル）
- ・協働による制作物（1 タイトル）
- ・3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター資料（6 タイトル）

音訳資料（30 タイトル）（再掲）

点訳資料（55 タイトル）（再掲）

5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等

『館内の催し』（印刷物／毎月）

『けやき通り通信』（印刷物／隔月）

『教材ライブラリーだより』（印刷物／隔月／PDF版をウェブサイトで公開）

『せんだいメディアテーク・メールニュース』（メール配信／毎月／登録者 2,317 名）

ウェブサイト（アクセス総数 662,650 件）

5-4. その他常備している印刷物

総合案内（日本語版／英語版／フランス語版／中国語版／韓国語版）

総合案内（目や耳の不自由なかたへ）

総合案内（車椅子アクセス）

貸出施設利用案内